

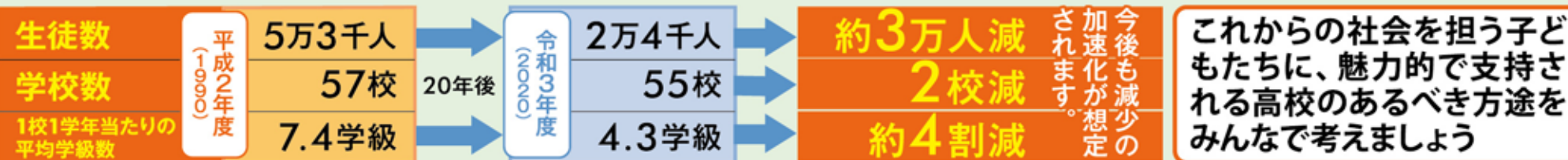
特集

若年人口の減少が進む  
社会の変化と多様化

愛媛

県立高校の振興計画指針が示される!

県立高校を取り巻く課題へのこれまでの取り組み



計画の内容

(1) 再編整備基準等

**適正規模 3～8学級**

※3学級を下回る学校は、**原則、募集停止**

**地域への配慮**

※県立高校等の地域活性化の核としての役割が高まってきたことを踏まえ、次に該当する学校は、3学級を下回っても、**各市町1校に限り「魅力化推進校(仮称)」**として存続することが可能

○市町に唯一の学校 ○島しょ部の学校など

**新チャレンジシステム**

3学級以上の学校	魅力化推進校
3年連続 80人以下	3年連続 30人以下
魅力化推進校に該当しない場合 募集停止	魅力化推進校に該当する場合 規模を縮小し魅力化推進校として存続 募集停止

※弓削高校及び松山北中島分校については、離島の特別措置を適用(募集停止基準3年連続20人未満)

(2) 学校魅力化の在り方等

**職業系学科の魅力化**

「産業科学高校(仮称)」の設置

地域経済の振興に資する産業人材の育成

**進学指導の強化**

「進学指導強化モデル校(仮称)」の設置

高い進学目標を持った生徒が地域で学ぶことができる体制の構築

**定時制課程・通信制課程**

・昼間二部定時制と通信制の課程を併置し、**小規模校等への授業配信拠点**としての機能を持たせた県立高校の設置

**総合学科の拡充**

・地域のニーズや生徒の実態を踏まえた系列の設置  
・より一層充実した**進学指導**

資料/愛媛県立学校振興計画策定の指針について(概要)より流用

西条地区の計画の概要

前期計画の内容

小松・東予・丹原を統合し、2校を設置

周桑高校(仮称) 校地は小松高校

- ◆ 普通科 **特色あるコースを設置**  
文理探究コース・教員養成コース・社会共創コース
- ◆ 理数情報科【新設】  
**情報を活用する力や分析する力を育成**

西条産業科学高校(仮称) 校地は東予高校(農業実習等は丹原高校)

- ◆ 農業科
  - ◆ 工業科
  - ◆ 家庭科
  - ◆ 商業科
- 職業横断型学習の実施**  
地域の振興に資する産業人材の育成

現状 (R4)				前期計画					
学校名	学科	学級	定員	学校名	学科	コース等	学級	定員	
西条	普通	5	200	西条	普通		5	200	
	国際文理	1	40		国際文理			1	40
	商業	1	40		商業			1	40
西条農業	農業	3	120	西条農業	農業		3	120	
小松	普通	3	120	周桑	普通	文理探究 教員養成 社会共創	3	120	
	家庭	1	40		理数情報			1	40
東予	工業	3	120	西条産業科学	農業		1	40	
丹原	普通	3	120	工業			2	80	
	農業	1	40	商業			2	80	
R4定員			2,184	R9定員			2,080		

※学級数については、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。  
※設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

周桑高校(仮称)の魅力化

多様な進路実現をサポートする充実した指導

**【新設】理数情報科**  
情報系大学への進学を目指す  
情報のスペシャリストになる  
プログラミング  
データ分析  
ソフトウェア開発

**普通科**  
【新設】文理探究コース  
夢を実現する高いレベルの進学を目指す  
【新設】教員養成コース  
教育学部への進学を目指す  
小中学校での実習 高大連携  
【新設】社会共創コース  
社会共創学部などへの進学や地元自治体などへの就職を目指す  
地域課題解決学習  
企業や行政などと協働した学習

異なる学科・コースの生徒が交流し、学びの拡充

西条産業科学高校(仮称)の魅力化

職業・学科横断的学習により、地域に役立つ産業人材を育成

**農業科**  
果樹 草花  
バイオテクノロジー  
野菜

**工業科**  
測量 建築構造  
プログラミング技術  
機械工作

**商業科**  
ビジネス情報  
マーケティング 簿記  
経済活動と法

**家庭科**  
ファッションデザイン  
調理 子ども文化  
介護福祉基礎

○他の学科の授業も選べる  
○互いに刺激し合い高め合える

振興計画のスケジュール

年度	周桑(仮称) ※校地は小松 西条産業科学(仮称) ※校地は東予 農業実習時は丹原
令和5年度	準備委員会
令和6年度	校名・学科・教育課程等 学校運営に関する ことを検討
令和7年度	
令和8年度	開校(1年生在籍)
令和9年度	1・2年生在籍
令和10年度	1・2・3年生在籍



これまでの説明会で出された、西条地区の御意見と県教育委員会の考え方(要点)

- 「小松高校の校地を使用するのなら、小松高校という名前のまま、新しいコースを設置したほうが伝統を引き継げるのではないか。」  
これまでにない新しいタイプの学校としてスタートするためです。  
○教育スタイルを実践する学校となります。新たなスタートを切るにあたり、中身のリニューアルにふさわしい新校名に変更することも検討してはどうかと考えています。  
校名については、準備委員会(R5設置)において(現校名を含め)検討することとしています。
- 「周桑地域の3校については、当面は現状維持でよいのではないかと。令和18年に生徒数が激減するタイミングに合わせて再編すればよいのではないかと。」  
学校の勢いのある間に、足腰の強い学校にするためのものです。  
○周桑地域の3校は、いずれも定員割れが続く、各校ともに3学級規模の維持が困難になりつつあります。  
○学校が余力のあるうちに、地域の生徒に選ばれる足腰の強い2校を設置することで、地域外への進学流出を食い止める効果も期待しています。
- 「なぜ周桑の3校を統合するのか。旧西条市内の2校もまとめて統合し、土地も買収して、新しい学校を作るのが一番よい。」  
土地の買収、新校舎の設置については、財政面等の観点から困難  
○また、中学生やその保護者の多くは一定規模以上の高校への進学を希望しています。その意向に応えるためにも、地区内全ての高校が小規模校になる事態は避けねばなりません。
- 「学校の規模が小さくなることを、なぜ弱体化と捉えるのか。小規模でも、一人一人に向き合う学校を設置するべきではないか。」  
小規模校にもメリットはありますが、デメリットが大きいと考えています。

資料/地域説明会配布資料(西条地区における振興計画(案)について)より流用